

チーム医療：呼吸ケアチーム（RST）

—関係部署—

心臓血管外科	循環器内科
外科	口腔外科
血液内科	整形外科
総合内科・感染症内科	呼吸器外科
内科	救命診療科

—概要—

2010年度の診療報酬改定から、呼吸ケアチーム（RST: Respiratory care Support Team）加算が新設された背景から、当院でも同年よりRSTが結成されている。

2022年度は呼吸器内科医師(1名)、急性・重症専門看護師(1名)、集中ケア認定看護師(1名)、臨床工学技士(3名)、理学療法士(3名)をコアメンバーとし、人工呼吸器離脱及び呼吸ケアに係る専任チームとして活動した。

RSTの目的は、人工呼吸器の離脱に向け、患者家族の苦痛緩和を含む呼吸管理および看護方法の相談を受け、医療チームを支援することである。安全な呼吸ケア提供のために必要な知識を医療者に提供し、医療の質向上を目指した。

2022年度のRST依頼件数は31件で、のべ38名の患者に対して回診を行った。

活動内容は週1回のラウンド【毎週水曜14時から1時間程度で対象患者は1～数名】に加え、定期ラウンド以外にも個人ラウンド(メンバーが単独で訪問し、主治医・受け持ち看護師と共にケアを実施)を行った。当該部署でのケア継続のために、回診時はRST診療録に記録し、回診内容の要点を担当スタッフに伝達した。スムーズな呼吸器離脱とその後の呼吸ケアについて助言する事で、患者の心身の苦痛緩和、安全確保、看護師のケア能力の向上を目指して相談を受け支援を行った。

呼吸ケアに関するデータ収集(人工呼吸器離脱率や離脱成功基準や失敗の理由・依頼状況や素因・人工呼吸器離脱患者数・人工呼吸器日数など)も、継続して行った。

また、RST内でのカンファレンスを開き症例検討を行う事で患者の問題点の共通認識を行い、ケア方法を検討する事で、より良いケアや介入を提案する事ができた。

—実績—

RST回診患者は38名

呼吸ケアに関するデータ収集結果

呼吸器離脱成功患者 22名

人工呼吸器離脱困難患者 10名

リハビリテーション科スタッフおよび介護福祉士への吸引手技教育

新採用者へのRSTチーム活動紹介:1回/年

病棟看護師対象の勉強会開催 5回

—今年度の成果と反省点—

今年度の相談件数は前年に比べ減少したが、22名の患者が呼吸器からの離脱・抜管に至っている。長期の人工呼吸器装着患者においても離脱する事ができており、短期的な離脱計画だけでなく、患者状態に合わせた長期的なPLANを立案し安全に呼吸器離脱を援助する事ができた。

また、今年度は吸引に関係する活動として、リハビリテーション科スタッフ(PT・OT・ST)や介護福祉士に対して吸引手技の教育を行う事で、看護職種以外のリハビリスタッフでも緊急時に吸引を行う事ができるようになった。ただ、吸引を行えたのは全スタッフの1/4程度であった。

—来年度への抱負—

高齢化が進む現状で、様々な合併症の発症により呼吸器離脱までの時間が長くなり、病棟でも人工呼吸器管理および離脱への取り組みが求められている。そのため、RSTが多職種の立場から人工呼吸器患者を安全にケアできる環境を整え、知識や技術の補填を必要なスタッフに実施していきたい。

また、吸引手技教育を終了したリハビリスタッフが増加しているが、活動できていないため安全に現場で吸引手技を使えるよう環境整備していきたい。